



1999年12月1日

三島町

町長 木戸 保之 様

社団法人日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部支部長 服部 範二
保存問題委員会委員長 兼松 紘一郎
JIA 新潟地域会代表 武藏 靖之

「三島町立脇野町小学校」の保存に関する要望書

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

貴町におかれましては、独自の地方自治を目指しておられることに深い敬意を表します。また日頃より本会と会員に対しご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

さて貴町が所有されております三島町立脇野町小学校は、昭和3年に当時の脇野町村が建てられた、地方の小学校校舎としては新潟県で最も古い鉄筋コンクリート造の建築であり、当時の人々の教育にかける情熱を物語りたいへん貴重な建物であると存じます。

近年日本経済の発展に伴って、近代建築が次々壊されていく中、71年にも渡り、存続・継承されてきた事に敬意を表します。

この度、新校舎完成にともない、旧校舎の取り壊しを検討されていると聞き及び、過日、建物を拝見させていただきましたが、丘陵を背に美しい自然にしっかり馴染み、時間を経て来た建物の持つ魅力と存在感を改めて実感いたしました。

この校舎は学校建築の原型を保有し、耐震・耐雪に十分配慮しつつ細部にいたるまで堅実、繊細なデザインで構成されており、そこには先達の《わざ》と《文化》が凝縮されています。

私ども(社)日本建築家協会関東甲信越支部の保存問題委員会は、市民に愛され使い続けられてきた建物を大切に、それに値する建物を保存活用することを理念として活動しております。

学び舎は小学生の感性を深く育み、その存在は多くの町民の記憶のなかに継承されてきていると思います。老朽化し危険であるとの由と伺っておりますが、貴町の長年にわたる尽力によって維持・管理され現在も立派な容姿を誇っていますし、旧校舎を取り壊すことなく新校舎も完成しています。したがって旧校舎に関しましては、十分な調査を行い、手を加えることにより、持続可能な建物として、新校舎と共に利用することは可能と考えられます。

今私達がこの建物を失うことは日本の近代建築の成果にとって、大きな損失であることは疑う余地がありません。そして、一度壊れた建物は二度と取り戻すことはできません。

時代を経てきた建物は所有者のものであると同時に、町民のものであり、建築史上でも価値の高いものであります。それを可能なかぎり保存していくことは、現在生きている私達の責務と言えるのではないのでしょうか。

又、建物は存続・継承していくために、文化財登録制度の活用のご検討もあわせてお願い申し上げます。以上の観点から、三島町立脇野町小学校の存続をお願いすると共に、保存・活用につきましては、私どもも出来る限りの協力と支援をさせていただきますことを、申し添えます。

敬具